

# 1. 平成26年4月～6月期の景気動向

DI平均値は、サービス業で12ポイントの回復が見られたが、建設業で22ポイント悪化し、前期(1～3月期)の△22.6ポイントから4.0ポイントマイナスの△26.6ポイントとなった。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 23 (△ 31) 	△ 31 (△ 41) 	△ 14 (△ 14) 	△ 19 (△ 46) 	△ 45 (△ 22) 	0 (△ 37) 	△ 48 (△ 41) 	△ 52 (△ 61) 	6 (△ 26) 	△ 11 (△ 15) 
採算		△ 30 (△ 31) 	△ 50 (△ 34) 	△ 24 (△ 21) 	△ 35 (△ 42) 	△ 11 (△ 11) 	△ 33 (△ 22) 	△ 52 (△ 52) 	△ 56 (△ 54) 	△ 33 (△ 42) 	△ 28 (△ 32) 
資金繰り		△ 7 (△ 35) 	△ 15 (△ 45) 	△ 5 (△ 12) 	△ 17 (△ 27) 	△ 11 (0) 	13 (△ 22) 	△ 38 (△ 44) 	△ 37 (△ 42) 	△ 19 (△ 22) 	△ 19 (△ 24) 
業況		△ 38 (△ 16) 	△ 30 (△ 24) 	△ 16 (△ 10) 	△ 32 (△ 33) 	0 (0) 	11 (△ 50) 	△ 52 (△ 48) 	△ 50 (△ 61) 	△ 27 (△ 39) 	△ 22 (△ 38) 
経営上の 当面する 問題点	1位	請負単価の低下		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		材料等仕入単価の上昇	
	3位	材料価格の上昇		製品(加工)単価の低下		販売単価の低下		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
業種別 コメント		<p>前期は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要等により業況DI値は大きく回復したが、今期は22ポイントの悪化となった。</p> <p>問題点として官公需要の停滞が挙げられており、ここきて先行きの仕事にかげりが見え始めている。</p> <p>請負単価の低下と材料価格の上昇の影響が採算DI値も大幅に悪化しており、本格的な業況の回復は少し先になりそうである。</p>		<p>今期状況は大きな変化はなく横ばいとなった。</p> <p>年度末の駆け込み需要後の仕事量の減少が懸念されたが、それ程の影響もなく安定した仕事量を確保できているようである。</p> <p>今後も原材料価格の上昇など、採算面での問題は課題であり、効率化、製品の高付加価値化等の企業努力が引き続き必要である。</p>		<p>消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動により、今期は売上DI値が23ポイントマイナスとなった。</p> <p>しかしながら今後の見通しについては、消費税率引き上げの影響も落ち着きを取り戻しつつあり、回復傾向に向かう見通しである。</p> <p>仕入れ価格が上昇し、販売価格が低下していく状況では原価計算が極めて重要であり、定期的な見直しが必要である。</p>		<p>前期に引き続き消費者の買い控えが続いており、停滞したままの状況である。</p> <p>他市、大型店舗への消費者の流出傾向に加えてインターネット等での無店舗販売への顧客流出も進んでいるため厳しい状況が続いている。</p> <p>商品の価格ではない個店ならではのサービスによるお店のファン作りなど個店の魅力を向上させる取り組みが必要である。</p>		<p>歓送迎会のシーズンであったため、全項目で回復傾向となった。</p> <p>来期についても明るい見通しではあるが、天候に左右されやすい業種でもあるため繁忙期以外の集客の工夫が必要である。</p> <p>お客様のニーズが多様化する現在では、業況の回復に甘えることなく、季節ごとのイベントを企画するなど常に変化のあるお店作り心がけることが大事である。</p>	



とくに好調  
(50 ≤ DI)

好調  
(25 ≤ DI < 50)

まあまあ  
(0 ≤ DI < 25)

不振  
(△ 25 ≤ DI < 0)

きわめて不振  
(DI < △ 25)

※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD・I値